「我が校の教育」特色ある活動紹介
市内の小中学校 全30校を毎月紹介します

第15回

郡上市立 石徹白小学校
郡上市立 小川小学校

石徹白小学校

県下で一番の極小規模校、全校6人が岐阜県一の「ぬくもりと活力」ある学校をめざしています。

「輝く12の瞳」がおりなす石徹白小学校にまつわる3つの感動（知徳体）を紹介します。

①脳に汗する自律的かつ協働的学びに没頭

とび複式の2学級で6人が学んでいます。「わたり」と言われる授業では、自ら課題と向き合い、脳に汗するほどの勢いで「自力解決」に没頭する姿があります。あるときは、生徒が教師役となって「協働解決」へと向かう主体的な学びが展開されます。自律的かつ協働的な問題解決力を鍛え、6人だからこそできる学びを展開しています。

②ふるさとの自然と命を育む いとしろ学

この石徹白の大自然を満喫し、やらされる活動ではなく自分たちの力でやりきる自然教室を創り上げています。イワナの放流は、学校の池で稚魚から大切に育て、この自然教室で石徹白川に放流しました。カワゲラウォッチングや白山中居神社での自然体験では、自然案内人の池戸さんを講師に招き、五感を使った自然とのふれあい方を学びました。夕方からは本校グラウンドにて野外炊事やキャンプファイヤー、保護者や地域のみなさんとのふれあい交流を企画し、ふるさといとしろ学を存分に味わっています。

③ふるさと自慢（石徹白民踊、スキー、一輪車）

今年も11月の三世代交流会での披露を目標に石徹白民踊に励んでいます。ふるさとに伝わる伝統文化を継承し、堂々と唄い踊る石徹白っ子の姿はあっぱれです。また、ふるさと自慢として、9月のふれあい運動会で成果を披露する一輪車、2月のふれあい雪の集いで成果を披露するスキーがあります。石徹白っ子6人が示してくれるふるさと自慢の姿は、ふるさと石徹白を大切にし、ふるさとに愛着と誇りをもつという姿を実証してくれています。

石徹白小校長　國居正幸

小川小学校

♪～花と、スケート、一輪車、歌～四つの自慢を大切にして～がんばっていこう　小川っ子

これは、校長が作曲し、いつも全校で歌っている「4つの自慢の歌」です。

子どもたちは、登校するとすぐに花壇に向かい、10分間、花の世話をします。雨の日、雪の日でも1日も休まず世話をします。

1月中は朝からスケートをします。子どもたちは自分たちで準備し、練習します。

朝の会、毎日各教室から歌声が響きます。毎日歌い続けているので、低学年から1人で自信をもって歌うことができます。

2時間目のあとの休み時間には、ほぼ毎日一輪車の練習をします。高学年を中心にたくさん練習ができるよう時間を大切にして活動しています。

新しい歌を覚えると、昼休みに、自主コンサートが始まります。最近は郡上学の「郡上節」に夢中です。

昼休みに思いっきり遊んだ後、掃除開始5分前には、黙々と掃除を始めています。

放課後、一輪車の練習を週に何度か自主的に行います。

いよいよ下校です。先生に元気なあいさつをした後、歌を歌いながら帰っていきます。

このように、4つの自慢は、日常生活と密接につながっており、4つの自慢の向上が日常生活や、授業の姿の向上につながっているのも事実です。

そしてその活動を、子どもたち主体で進めているのも自慢のひとつです。例えば花の活動は、FBCに参加して43年目になりましたが、花の世話の方法は、上級生から下級生に引き継がれています。下級生は上級生にあこがれをもち、上級生を目標としてがんばっています。

また、4つの自慢は、人前で披露する機会が多く、そのたびにいろいろな人に褒めていただきます。そのことが、子どもたちの自信につながり、一層意欲的に活動するようになります。

さらに、4つの自慢は、地域と密接な関係にあります。スケートの水まきや、花壇の堆肥づくりなど、保護者、地域のみなさんの協力なしではできません。子どもたちは、普段から支えてくださる地域のみなさんに感謝の気持ちを忘れず、活動しています。

今後も地域とともに、小川小の自慢を大切にしていければと考えています。

小川小教務主任　鹿野考史